

酒田っ子

すくすく

第145回



子育て講座

東北公益文科大学 名誉教授
國眼 眞理子 先生

子育てをめぐる不安や悩み

間もなく2歳半になるタアちゃん。表情やしぐさからママやパパの言うことは理解しているようですが「ママ」「パパ」の他は、エプロンは「プー」ですし、違うは「ナイ」といった具合で、他の子に比べ、言葉が少ないのが気になっています。子どもの育ちには個人差があるとわかりつつも、「発達が遅れているのでは」「育て方が間違っているのでは」とママやパパの心配は募るばかりです。

でも友人や知り合いに相談するのはためらいますし、保育園の先生に相談したいと思っても、忙しそうで何だか気が引けます。

こんなとき気兼ねなく、いつでもどこでも相談できるのがインターネットの利点です。しかし人は、言葉以上にやりとりの内容を相手の表情やしぐさから理解

すると言われていきます。インターネット相談は言葉が中心です。不安を受け止めたり個々のニーズに添ったりなどの対応は難しく、対面での相談が勝るでしょう。

ちなみに酒田市のホームページには、子育てについて相談できる施設が掲載されています。

多くは平日開設ですが、土日開設の施設や、中町にある「交流ひろば」内の窓口のように年末年始の休みを除いて開いている窓口もあります。「こんな些細なこと、つまらないことに悩んでいるのは自分だけでは」と思いがちですが、2人で思い悩むより、ちょっと相談してみませんか。

すぐに解決につながらなくても話を受け止めてくれる人がいると自分の気持ちや考えが整理されますし「聴いてもらう」ことによって心の重荷や迷いが和らいで、明日へのエネルギーが湧いてきます。

価値観が多様化し、何が正解なのかが見えにくい時代です。子育てにおいて完璧なママやパパはいないのです。



日本海と大地がつくる 水と命の循環

鳥海山・飛島ジオパーク

リレーコラム

交流観光課観光戦略係

☎26-57759

第128回

大地の動きと鳥海山の噴火がつくるイチジク

中東のアラビア半島が原産とされるイチジクは、クワ科イチジク属の落葉樹です。イチジクと人の関わりは古く、聖書に登場するアダムとイブが最初に身に付けたのがイチジクの葉とされています。日本には江戸時代に伝わり、明治以降に多くの品種が栽培されるようになりました。

亜熱帯産のイチジクは寒さに弱く、また葉が大きいので、寒冷地や風の強い場所は栽培に適しません。さらにイチジクは水分を必要とする割には耐水性に弱いので、育成には適度な水分を保持する必要があります。

秋田県にかほ市大竹地区は大地の動きが造った高台の陰に位置しているため、日本海から吹き付ける季節風がほとんど当たらず、また標高も高くないので冬でもあまり気温が下がりません。



▲にかほ市の特産品の一つであるイチジク。「大竹いちじく」は農水省の日本地理的表示(GI)にも登録されています。

またこの地域には、鳥海山の火山灰に由来する黒ボク土が分布しています。柔らかい黒ボク土は適度な水分を保持する性質を持ち、イチジクの栽培にはうってつけです。イチジクの栽培に適した地形と土壌、そして人々の努力が、この地域で農作物としてのイチジク生産を支えています。

9月から10月に旬を迎えるイチジクを使った甘露煮は、厳しい冬を乗り切るために生み出された食文化の一つです。一粒のイチジクの甘露煮には、地域の自然環境に対応するための人々の知恵が詰まっています。



一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会事務局次長兼主任研究員
大野 希一氏